

北野<sup>きたの</sup>は王城<sup>わうじやう</sup>の北西の方なり、天曆年中に聖廟<sup>せいべう</sup>をうつし、洪々たる宮社をいとなみしより、詣で来る人陰晴をえらばず行つたふさま、神威こゝにいちじるし。

北野の宮によみて奉りける

続後撰 くもるべきうき世の末をてらしてやあら人神は天降けん

慈 円

白川院の御ときあらざるほかの事によりて、御きそく心能らず侍ける時、唐鏡<sup>からのかぐみ</sup>を北野の宮へ奉るとて、かぐみのうらにかきける、

続古今 身をつみて照しをさめよます鏡たが偽もくもりあらずば

顕 輔